

仙人通信 205 奈良倉山(1348m)・鶴寝山(1368m)

奈良倉山は、大月と小菅の中央に位置し、大菩薩峠から連なる山で秀麗富岳 12 景の山でもある。又鶴寝山は松姫峠で、奈良倉山と対峙した山でこちらも富士山が望める山である。

松姫峠へは、深城ダムから小菅へと連なる旧国道 139 にあるのだが、新道が造られて松姫トンネルの小菅側からしか、車では行くことができない。

松姫峠に設けられた 7 台程の駐車スペースに車を置き、両山をピストンする事にした。

松姫峠からは、尾根の南側に佐野峠に向けて林道が設けられ、奥多摩トレイルランコースとしても利用されているが、一般車の通行はゲートで閉ざされている。

ゲートの横にある奈良倉山を示す標記に従い 5 分程進むと、登山道を示す道標である。

ここからは、尾根の小菅側(北側)の水檜等の林の中となる。雨上がりの事もあり、コースは窪んだ状態があるのみで足跡は殆どない。梢の先に小菅方面が僅かに見える程度の暗いコースを 25 分程進むと、明るく開けた先程の林道(尾根)に出る。南面は唐松林・北面は檜林となるも、梢の先の山脈は霧が濃くて望めない。10 分程進むと送電線の鉄塔があり、やがて奈良倉山を示す道標だ。尾根筋を 7 分程で二等三角点の山頂である。山頂の南側は切り開かれて富士山が望めるようになっているも、手前の檜木尾根(泣坂の頭)から先は、雲の中だ。復路は来た道に戻るのだが、明るい道を求め、林道をそのまま松姫峠まで辿るコースとした。南面と言うこともあり、枝の分岐が多いタカアザミが沢山見かけられた。往復で 120 分のピストンとなった。

松姫峠の命名は、武田勝頼の妹で、勝頼が天目山で天正 10 年に敗れた事から、甲州から八王子へ逃げ伸びた時にここを通った事から付けられたとある。

次は、道路を挟んで反対側にある登山道から鶴寝山へのスタートである。水檜やブナのコースで周囲は何も望めない急な登りを詰めると、10 分程で山頂と大菩薩峠(二輪草コース)の分岐となる。イガが開いた山栗や赤いヤマボウシの実が、地面ではハナホウキタケ等が秋を告げてくれていた。更に 15 分程で鶴寝山の山頂である。

こちらも南面が開かれているも雲の中だ。足元では、ピンクのママコナが咲いて、心を癒してくれた。休憩後 25 分程で、往復 50 分で車に戻った、3 時間半(11000 歩)の山旅でした。

松姫峠からの展望を期待し待ちましたが、松姫湖の先の大菩薩峠から、小金沢・黒岳・雁の腹摺り山が限界でした残念・。しかし足元には、季節の花である、タカアザミ・紫を帯びたノコンギク・白いクサボタンやハギが心を癒してくれる山旅となりました。(R 2.09.29)

奈良倉山

松姫峠

松姫峠からの展望

鶴寝山

